

「」と「得」の違い

相手の事を思いやると、相手も自分のことを必要と感じてくれるものです。

「徳」という漢字は、ギョウニンベンに「直の心」と書きます。つまり「直心」という意味で、これは神仏の御心を指しています。この神仏の御心を行ずる事が「徳」、すなわち神仏の働きが「徳」という意味になります。

また損得の「得」の方は、「得る」という字で、ギョウニンベンに日があつて、下に「一寸(ちよつと)」。だから神仏の御心を少しだけ行ずるのが、損得の「得」になります。

であれば、日常生活でこの「徳」を積む生き方とは、どういう生き方をいうのでしょうか？それは「感謝に生きること」に他なりません。

普通「徳」を積もうと思えば、何か自分が良いことをすれば、徳を積んでいる様に考えるかもしれませんが、しかし「良いことをしよう」と思つて行動している段階では、実は本当の徳は積めないのですね。言い換えれば、これはただ自分勝手に行動し

ているだけになるのです。この自分勝手な心の状態では、どんなに良いことをしているつもりでも、「徳」にまでは至らないのです。

本当の「徳」とは、自分の気持ち以上に、神仏の御心が、自分を通して働いてくださらない限り、損得の「得」止まりなのであります。

また、本当の「徳」の積み方にも、色々と段階があると思うのです。大きくて深い徳もあれば、浅く小さい徳もある。これは「自身の感謝」に比例すると思うのです。感謝の気持ちが深ければ深いほど、感謝の大きい働きを受けることになります。その様に神仏が大きく働いてくださった時こそが、本当の大きな徳積みになると思うのです。

『得』とは借金・『徳』とは貯金

損得の「得」は、皆さん手に入れて喜ぶけど、本当は手に入れた分はみんな大きな借り、借金になっていくのです。本当の「徳」は貯金です。神仏は報いを求めずにプラスの良い働きをして、人を幸せにするから、本当の利息がたくさんつく貯金をされているのです。でも「得」は違います。本人は人のために尽くしたと思つているかもしれませんが、そういう思いの心でもって行

動した働きには、全部自分の「思い」をかぶせてしまうのです。「思い」というのは神仏から見ればマイナスにあたるのです。思いをかぶせた分だけ相手に負担をかけ、相手の心を曇らせていくのです。いま世の中は働かずにお金を儲けようという生き方の終焉を迎えていると思うのです。昔の人はよく働きましたし、タダ働きもよくしたと聞いています。だから徳を積ませてもらつて幸せだったのです。ところがある時期から、働かずにお金をたくさん貰おうという風潮が出てきました。働かずに得たお金はみんな借金なのです。宝くじが当たつても、保険金を貰つても、ぼろ儲けしてもみんな不労所得になる。その時は得したように錯覚するけど、本当は高利の借金をしたのと同じ状況なのです。思いを積み重ねた生き方では幸せになれないのです。マイナスへ、マイナスへと心が向くので、周囲には同じ様な感覚の人間が集まつてくることになります。その様に「徳」を積んでいる人には「徳」を積んでいる人が、「得」を積んでいる人には「得」を積んでいる人が、周囲に集まってくる。これは教育問題にも同じ事がいえます。

現代の小学校はあつちもこつちも大変に立派な校舎を建てて、子供達に贅沢をさせているじゃないですか。掃除なんかも専門の人を学校に雇つて、子供達が掃除をしない状況を作り上げています。これで子供の徳を全部奪っているも同じですよ。それで子供が立派に育つわけがありません。人間の思いがかぶさつて色々な問題を引き起こすようになってしまった現代社会。それは小さい子供の心の奥底で、子供達自身も分らないところで苦しいものだから、一生懸命にはね除けようとしています。しかし残念な事に、それが全てマイナスの行為になってはね返つてしまつていきます。子供は本当に素直です。将来を担つていくその子供の心の成長を、私達大人の一人一人が見守つていけるように、改めて自らの心の置き所を確認してみようではありませんか。合掌

副住職 谷川寛敬

